発掘だより

2006.11

ちょっと寄ってみませんか？

――三好氏ゆかりの散歩道・板野町編――

～晩秋の地蔵寺～

藍住町の西隣の板野町にも，三好氏にゆかりのある史跡がたくさんあります。今回は，中でも黄色く色づくイチョウがきれいな四国霊場八十八カ所第五番札所・地蔵寺へご案内します。

地蔵寺へは，徳島バス「羅漢」バス停から北へ徒歩5分です。

近くには，三好義賢(よしかた)のめいのむこさん・赤沢信濃守の居城だった板西城址や信濃守をまつった所，また家来の墓などがあります。

地蔵寺は，弘仁(こうにん)12(821)年に嵯峨(さが)天皇の願いによって空海(ほんぞん)が開いた寺です。本尊の勝軍地蔵(しょうぐんじぞう)は，甲冑(かっちゅう)を身につけ馬にまたがる勇ましい姿をしているため，古くから多くの武将の信こうを集めてきました。

山 門
後ろに見えるのは弘法大師お手植えと伝えられるイチョウの巨木

本 堂

今でも約4万㎡の広いしき地を持ち，戦国時代の大きな寺のおもかげがあります。

文献によると，戦国時代には三好氏の保護を受け，二十貫文の領地をもらって真言宗のリーダーをつとめたとあります。境内には26の寺があって，しき地は三町七反(約3万7千㎡)あまりあったそうです。天正10(1582)年に長宗我部(ちょうそかべ)氏が攻めてきた時，古くからある建物や寺の宝のほとんどが焼けてしまったため，現在の建物はその後に建てられたものです。

奥の院の羅漢堂(らかんどう)は，安永4(1775)年に建てられました。木造の羅漢は全国的に珍しいものですが，大正4年の火事で焼けてしまいました。現在あるものは，大正から昭和にかけて作られたものです。

奥の院・羅漢堂

荘厳なふん囲気の奥の院
羅漢堂

羅漢さんとはお釈迦さんの弟子で，修行によって阿羅漢果(あらかんか)という，人間として最高の位に達した人です。

怒ったり，笑ったり，悲しんだりなど人間味のあるさまざまな表情をしています。

五百羅漢では，お参りする人に縁のある人に似た人が見つかると言われています。あなたに似た人もいるかも･･･。

森家の墓

代々三好氏に従い，のち蜂須賀(はちすか)氏に仕えた水軍の総司令官・森家の墓があります。

森甚太夫家の墓

森氏の水軍の基地は土佐泊(とさどまり，現鳴門市)にありました。近畿地方への大軍の海上輸送によって軍事的に三好氏を支え，藍染めに用いるすくもを堺に運ぶことで経済的にも支えました。天正10(1582)年，吉野川の洪水の中で落城寸前の勝瑞を救ったことでも知られています。

森氏は勝瑞落城後も独立を守り，長宗我部氏には従いませんでしたが，三好氏が没落した後は蜂須賀氏に従いました。

のちに森志摩守(しまのかみ)，森甚五兵衛(じんごべえ)，森甚太夫(じんだゆう)の三家に分かれ，地蔵寺は森甚太夫家の先祖をまつる寺となりました。

森甚太夫家は慶長(けいちょう)19(1614)年の大坂冬の陣でも活躍し，徳川家康から感状(＝手柄の証明書)が与えられています。蜂須賀家から中老(ちゅうろう)※に列せられて代々海上方(かいじょうかた)という役職をつとめました。

※中老は，藩主や家老(5人)に次ぐ地位です。

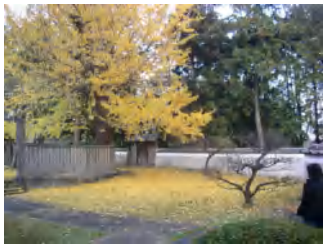
奥の院・羅漢堂への通路

羅漢堂へ向かう通路の両側に置かれた灯籠(とうろう)には，蜂須賀氏の家臣の名が見られます。その中には森甚太夫とともに，椿泊(つばきどまり，現阿南市)に移った森甚五兵衛の名も見られます。

俗名森新正氏村高麗開
陣之後病而終焉葬于釜山海了
文禄五丙申七月朔日

豊臣秀吉の命でおこされた朝鮮半島への出兵(文禄・慶長の役)にあたって，森新正氏村という人が蜂須賀家政(はちすかいえまさ)とともに朝鮮半島へ渡ったことや，現地で病死し，文禄5(1596)年7月1日に釜山(ﾌﾟｻﾝ，韓国のまち)の海に葬られたことが書かれています。

たくさん並ぶお墓の1つで拓本(たくほん)をとってみました。



こんなきれいな黄色いじゅうたんがしかれた所もありますよ

K. Suzaki

発掘現場ニュース

11月26日(日)午後から現場説明会を行いました。展示解説や現場説明の後，城館跡のまわりに残るいにしえの勝瑞を感じる散策を行いました。雨の中たくさんの方にご参加いただき，ありがとうございました。

散策マップは事務所でお渡ししています。ホームページからもダウンロードできます。お気軽にどうぞ！

問い合わせ先
藍住町教育委員会　社会教育課
勝瑞発掘現場事務所
TEL･FAX (088)641-3466
URL：http://www15.ocn.ne.jp/~shouzui/
E-mail：syugomachishouzui@air.ocn.ne.jp